

GLORY writes a new STORY



グローリー株式会社
2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

【説明者】

- ・代表取締役社長 原田 明浩
- ・経営戦略本部長 田中 千也

2026年3月期 第3四半期累計期間

1 決算ダイジェスト
代表取締役社長 原田 明浩

2 連結業績
執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

2026年3月期 通期

3 連結業績予想
執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

2026年3月期 第3四半期

1 | 決算ダイジェスト

代表取締役社長 原田 明浩

「第3四半期の決算ダイジェスト、及びトピックス」

説明者：代表取締役社長 原田 明浩

「トピックス」

- ・営業利益の長期トレンド
- ・海外市場の販売動向
- ・国内金融市場の成長性

決算ダイジェスト

GLORY

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

【売上高】 **2,423** 億円 【営業利益】 **143** 億円（のれん償却前利益 **208** 億円）
 前年同期比 **-377** 億円（**-13.5%**） 前年同期比 **-159** 億円（**-52.6%**）

- 海外市場での売上高は前期並み（前年同期比+3億円）、営業利益は回復傾向（前年同期比+15億円）
- 国内市場は、前期に発生した20年ぶりの新紙幣発行対応（特別需要）の反動により減収減益も 想定内
 売上高は新紙幣発行対応前である2023年3月期を上回る

2026年3月期 通期 連結業績予想

◆ 日本基準

【売上高】 **3,400** 億円 【営業利益】 **240** 億円（のれん償却前利益 **325** 億円）
 前期比 **-290** 億円（**-7.9%**） 前期比 **-127** 億円（**-34.7%**）

◆ IFRS会計基準

【売上収益】 **3,400** 億円 【営業利益】 **295** 億円

2026年3月期期末決算より国際財務報告基準（IFRS会計基準）を適用予定

- 国内金融は非現金事業の拡大を推進、リテールは国内外においてセルフ化ニーズの継続を見込む
- 流通・交通市場において、納入時期の変更を見込むも、中長期的な事業展開への影響はなし

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

4

「2026年3月期 第3四半期 決算ダイジェスト」

（2026年3月期 第3四半期実績）

・売上高 **2,423** 億円（前年同期比－377 億円）
 ・営業利益 **143** 億円（前年同期比－159 億円）

海外市場では前年同期並みの販売となりましたが、営業利益は前年同期比15億円増加
 国内市場では新紙幣発行に伴う製品更新や改造作業が終息し、減収減益

（2026年3月期 通期業績予想）

日本会計基準

・売上高 **3,400** 億円（前期比－290 億円）
 ・営業利益 **240** 億円（前期比－127 億円）

IFRS（国際財務報告基準）

・売上高 **3,400** 億円
 ・営業利益 **295** 億円（前回予想285 億円）

売上、営業利益の予想は据え置く

海外市場、国内市場ともに人件費高騰や人手不足に伴う省人化及び業務効率化のニーズが継続
 セルフ型製品の需要は堅調に推移する見込み

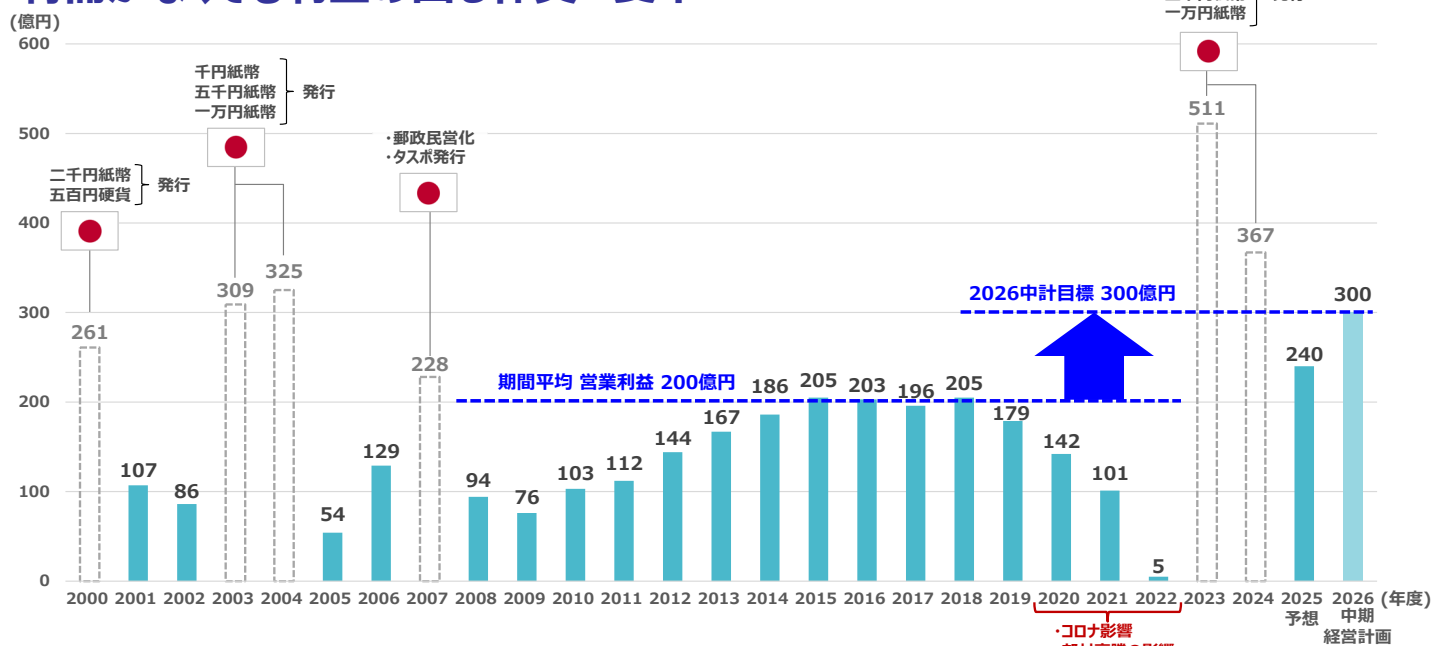
全社連結 営業利益の長期トレンド

<日本会計基準>

GLORY

特需がなくても利益の出る体質へ変革

※のれん償却後営業利益



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

5

「全社 営業利益の長期トレンド」

グラフは全社連結の営業利益の長期トレンド

2000年から2026年までの日本会計基準ののれん償却後の営業利益の推移

グラフの灰色点線で示してわれている年は特需対応時期

(2000～2007年度)

4 回の特需

(2008年度以降)

弊社営業利益の巡航速度 期間平均の営業利益は約200億円が実力

(2020～2022年度)

COVID-19の影響、部材高騰、半導体の入手難等で営業利益が急減

(2023～2024年度)

20年ぶりの千円札、五千円札、一万円札の新紙幣発行

的確な対応により大きな営業利益を創出。20年前に比べて事業規模の拡大し、金融、流通、飲食を含めて製品の販売や改造作業を実施

(2025年度)

特需後の営業利益は240億円と、コロナ前平均の営業利益を2割ほど上回る

(2026年度)

中期経営計画の最終年度であり、現時点では300億円ののれん償却後の営業利益が目標

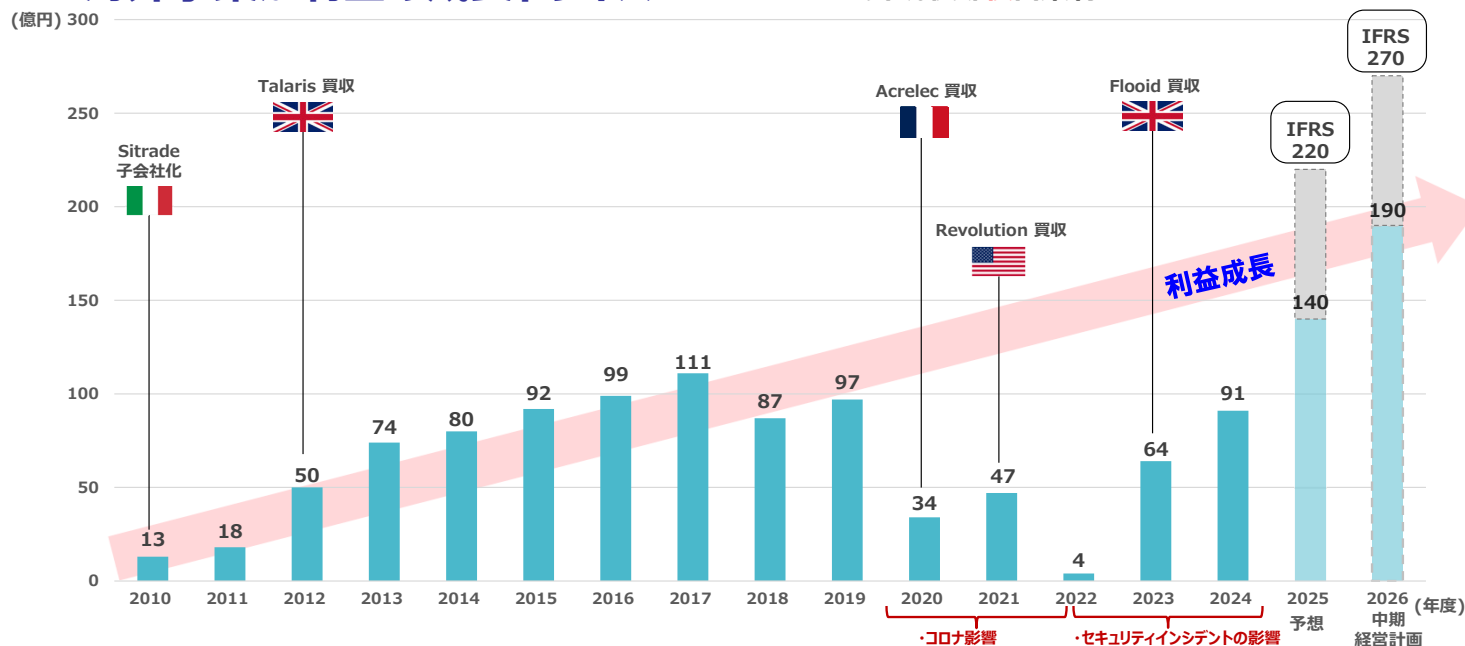
海外市場 営業利益の長期トレンド

<日本会計基準>

GLORY

海外事業が利益の成長ドライバー

※のれん償却後営業利益



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

6

「海外市場 営業利益の長期トレンド」

連結全体の中から海外市場だけの営業利益を取り出したグラフ

海外売上高が全体の65%を超え、海外が利益の成長ドライバーという位置付け

(～2010年)

海外での買収もなく、非常に低い利益額。

(2010年～)

海外企業の買収と事業成長を繰り返し、利益成長

(2020～2022年度)

コロナや部品部材の高騰の影響

(2023～2024年度)

セキュリティインシデントが発生した影響と、アメリカで買収した子会社との統合によるERPシステムのトラブル等で想定外のコスト発生

(2025年度)

営業利益は140億円を予想

(2026年度)

中期経営計画の最終年度に190億円を狙う。事業計画を立案中

2025年度期末から会計基準を日本会計基準から国際会計基準に変更

年間約80億円ののれん償却費が上積みされ、2025年度の営業利益はIFRS換算で220億円、2026年度は270億円

来年以降はIFRSの基準の営業利益が目標となる

海外市場 英国 Waitroseからの大口受注

GLORY

英国スーパーマーケット Waitroseより、
バックオフィス向け紙幣硬貨入出金機285台を受注

Flooid既存顧客からの受注であり、買収シナジーを発揮



flooid
a GLORY company

Waitroseとは

- | | |
|--------|----------------------------|
| ・ 展開地域 | 英国 |
| ・ 店舗数 | 421店舗 |
| ・ 売上高 | £ 7.7 billion (≒1兆4,500億円) |
| ・ 取扱商品 | 食品、日用品など |



採用理由

- ・ 英国内全店舗のバックオフィスにおける現金管理プロセスの効率化に貢献
- ・ 店舗内の試行において、グローリーのソリューションの有効性を認識
- ・ 保守サービスへの高い評価

今後の見通し

- ・ グローリーが提供するデジタルソリューション「UBIQULAR™」の活用により導入店におけるリモート現金管理を実現



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

7

「海外市場 英国 Waitroseから大口受注」

（企業概要）

イギリスにある大手スーパーマーケット

店舗展開：英国のみ約420店舗

業態：スーパーマーケット 食品、日用品を販売

売上高：7.7ビリオンポンド

（導入経緯）

一昨年を買収したフルイドのPOSシステム導入企業

グローリーのバックオフィス向けの硬貨紙幣入出金機を紹介したところ、評価され採用に至る

（商談規模）

現時点で421店舗中285台を受注

これから納品がスタート。業績への寄与は来期以降

（採用理由）

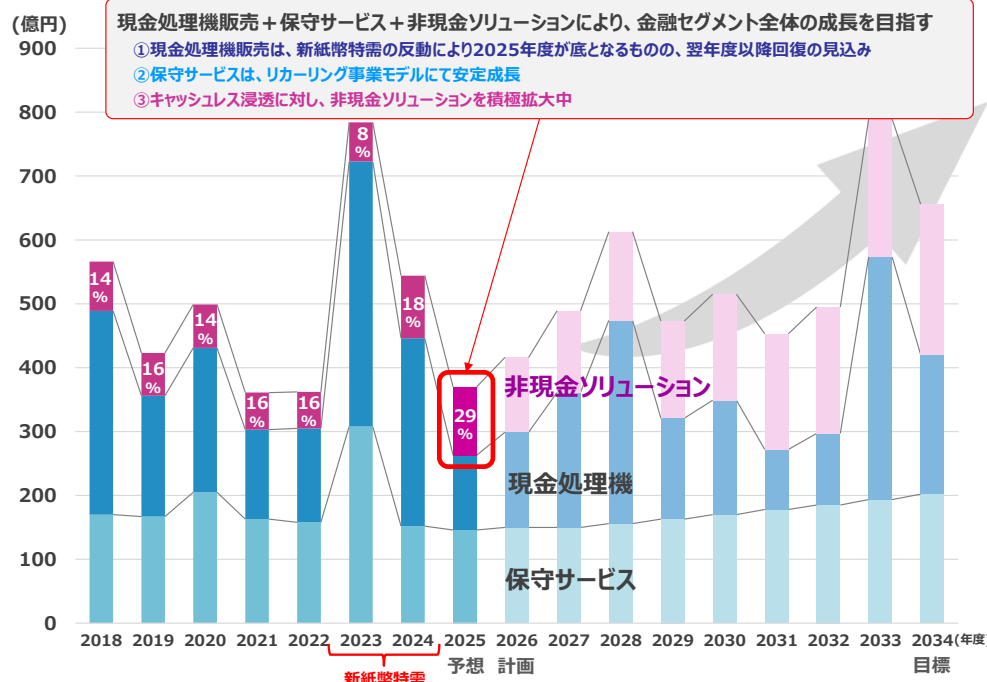
英国全店舗、リテールショップのバックオフィスにおける現金管理プロセスの効率化

試行による有効性を認識確認

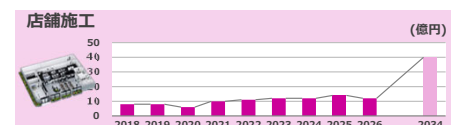
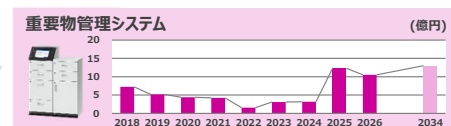
グローリーの保守メンテナンス網の充実

（今後の見通し）

グローリーが提供するデジタルソリューション「UBIQULAR」により、ネットワークを介して全店舗の在High管理や、ソフトウェアの自動ダウンロード、機器のモニタリング、故障診断等を適用予定



非現金ソリューション（一例）



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

8

「金融市場 現金処理機/保守サービス/非現金ソリューション 売上高推移」

国内金融市場の売上高を三つの区分で示したグラフ

グラフの最下部(一番薄い色)が保守メンテナンスサービスで、リカーリングのビジネスモデル

その上の濃い青が現金処理機

最上部の紫色が非現金ソリューション

今後、当セグメントは現金処理機の販売、保守サービス、非現金ソリューション、この三つにより全体成長を図る

(現金処理機)

2025年度は大きく落ち込むが新紙幣特需の反動。今年度が底で、来年度から回復に向かう

(保守サービス)

過去に納めた機械の保守も7年から10年間継続するので、非常に安定したリカーリングビジネスが続く

(非現金ソリューション)

キャッシュレス浸透を踏まえ、非現金ソリューションを伸ばし売上高比率を上げていく

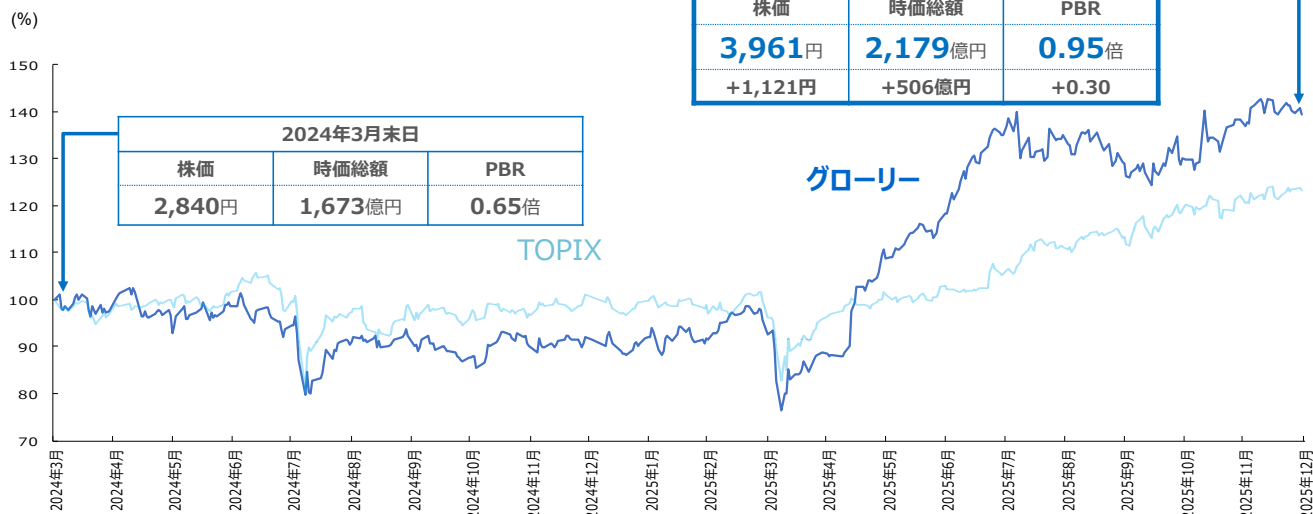
右側の4つのグラフは非現金ソリューションに含まれる主要製品・事業

銀行に必要な重要物管理システム、メール便の授受システム、機器販売だけではなく店舗の中の効率化等を踏まえた店舗施工、さらに従来支店で行っていた業務のセンター化を促進するドキュメント・プロセッシング事業等に注力し、金融セグメント全体を伸ばす

株価推移と自己株式の取得状況

GLORY

◆ グローリーの株価推移 (2024年3月末-2025年12月末)



◆ 自己株式の取得進捗

取得価額の進捗率は、日数進行率と同水準のペースで進行

取得期間：	2025年5月14日～12月31日 ※最長 2026年5月13日 (日数進行率 64%)
取得株数：	約278万株※上限 600万株 (進捗状況 46%)
取得価額：	約98億円 ※上限 150億円 (進捗状況 65%)

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

9

「株価推移と自己株式の取得状況」

2026中期経営計画開始の2024年3月末からの株価グラフ

当初の株価は2,840円、時価総額1,700億円弱、PBR0.65倍

自社株買い等を進めた結果、第3四半期末時点では、12月末時点で株価は4,000円弱、時価総額で2,200億円弱、PBRで0.95で推移

本日時点で株価は4,000円を超えているので、PBRはほぼ1倍に近づき、自社株買いも順調に進み予定どおり買い付けできる見込み

今期、来期は総還元性向100%を公表。引き続き株価向上に向けて努力する所存

2026年3月期 第3四半期累計期間

2 決算概要

執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

「2026年3月期 第3四半期決算概要」

説明者：経営戦略本部長 田中 千也

連結業績概要

<日本会計基準>

GLORY

売上高

海外の販売は前年同期並みで推移、国内の販売は新紙幣関連需要の反動等により減収

利益

国内において利益率の高い主要製品や新紙幣対応に伴う改造売上高の減少により、営業利益、経常利益、純利益とも減少

億円	第3四半期累計期間				前年同期比
	2025年3月期	売上高比率	2026年3月期	売上高比率	
売上高	2,800	100.0%	2,423	100.0%	-377 -13.5%
保守売上高	1,015	36.3%	943	38.9%	-72 -7.1%
営業利益	302	10.8%	143	5.9%	-159 -52.6%
経常利益	233	8.3%	102	4.2%	-131 -56.2%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	132	4.7%	43	1.8%	-89 -67.4%
※ EBITDA	480	17.1%	326	13.5%	-154 -32.1%
為替 レート	ドル	153 円	149 円		
	ユーロ	165 円	172 円		

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

11

「2026年3月期 第3四半期業績概要」

2026年3月期 第3四半期の業績は、減収減益

- ・売上高は、2,423億円（前年同期比－377億円）
- ・営業利益は、143億円（前年同期比－159億円）
- ・経常利益は、102億円（前年同期比－131億円）
- ・親会社株主に帰属する四半期純利益は、43億円（前年同期比－89億円）

（売上高）

海外は前年同期並みで着地。国内では7月に新紙幣の発行があった前年同期と比べて減収だが想定内

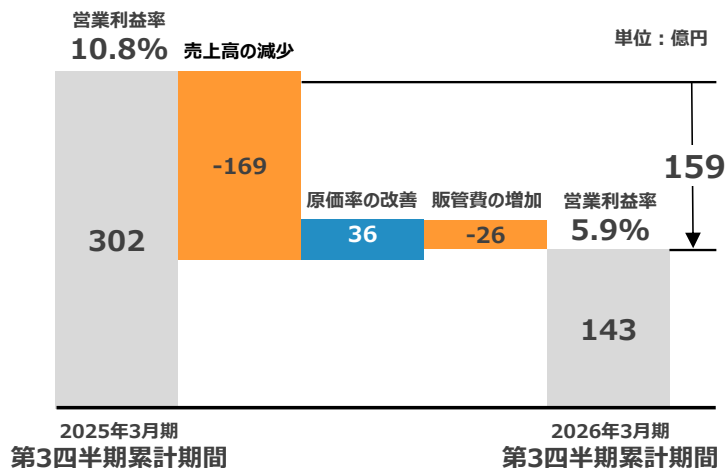
（営業利益）

海外でのコスト改善が進む一方、国内の主要製品売上減少が影響し、全体として減益
また、経常利益、親会社株主に帰属する四半期純利益についても減益

営業利益 増減要因

<日本会計基準>

GLORY



売上高減少の影響

- ・新紙幣発行に伴う製品更新や改造作業が終息し、国内事業の売上高が減少

原価率改善の効果

- ・米国での保守原価が改善

販管費増加の影響

- ・海外関係会社のコスト増加

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

12

「営業利益の増減要因」

販売面の反動減は一過性かつ想定内で、コスト改善の取り組みは継続して効いている、というのが足元の特徴

(減益要因)

・売上高の減少の影響 **169億円**

・販管費の増加 **26億円**

(増益要因)

・原価率改善の効果 **36億円**

特に米国の保守原価改善が利益面を下支え

・営業利益 **143億円** (前年同期比 - 159億円)

セグメント別売上高・営業利益

<日本会計基準>

GLORY

億円	第3四半期累計期間					
	売上高		前年同期比	営業利益		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期		2025年3月期	2026年3月期	
海外市場	1,532	1,535	+3 +0.2 %	45	60	+15 +33.3 %
金融市場	425	250	-175 -41.2 %	80	25	-55 -68.8 %
流通・交通 市場	557	408	-149 -26.8 %	101	11	-90 -89.1 %
遊技市場	231	172	-59 -25.5 %	77	49	-28 -36.4 %
その他	53	55	+2 +3.8 %	-2	-3	-1 - %
合 計	2,800	2,423	-377 -13.5 %	302	143	-159 -52.6 %

海 外

欧州における販売が増加も、Acrelec、Flooidの販売減少により、前年同期並み

国 内

新紙幣関連需要の終息等により、減収減益

のれん償却

のれん償却額64億円 ➡ のれん償却前営業利益 208億円

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

13

「セグメント別の売上高・営業利益」

(海外市場)

省人化・効率化ニーズが継続し、需要は堅調

米州の一時的なコスト増の改善が進み、利益は増加

(国内市場)

金融・流通交通・遊技の各市場で新紙幣対応に伴う更新・改造の終息が響き、売上・利益とも減少

想定内の反動減であり、次ページ以降で各市場・地域の詳細を説明

海外市場

<日本会計基準>

GLORY

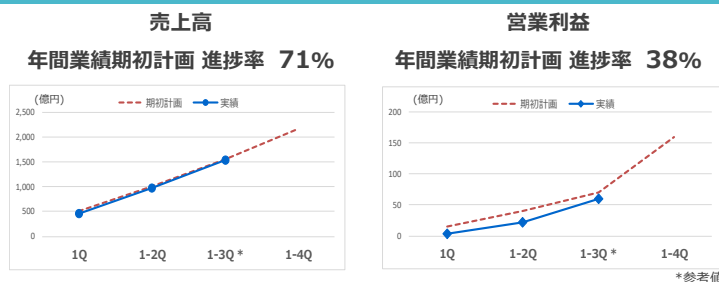
億円	第3四半期累計期間		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期	
売上高	1,532	1,535	+3 +0.2 %
売上高 構成比率	55%	63%	+8 pt
営業利益	45	60	+15 +33.3 %
営業利益率	2.9 %	3.9 %	+1.0 pt

製品以外	製品	営業利益
43	45	3
321	338	18
242	228	38
215	228	
247	316	
3Q	4Q	1Q
2025年3月期	2026年3月期	2Q

業績のポイント

売上高	実績	前年同期並み
	要因	欧州での販売増加も米州及び買収子会社の売上が減少
	対策	引き続き、大口商談を中心に販売拡大を目指す
営業利益	実績	前年同期比で増益
	要因	米国でのコスト改善が大きく寄与
	対策	引き続き、注力市場にて販売拡大を図る

計画に対する進捗



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

14

「海外市場」

・売上高 1,535億円（前年同期比 +3億円）

・営業利益 60億円（前年同期比+15億円）

バックオフィス向け CI シリーズの販売はセルフ化ニーズの継続で堅調、金融機関向け 紙幣入出金機（GLR シリーズ）も概ね前期並み

一方、リテール向けの保守売上は減少したが、米州リテール事業の利益改善が全体の収益を押し上げる

地域別売上高 全体

<日本会計基準>

GLORY

億円	第3四半期累計期間		前年同期比		米ドルベース
	2025年3月期	2026年3月期			
米州	717	687	-30	-4.2%	-1.8%
内 GGS	612	608	-4	-0.7%	+1.8%
内 Acrelec	49	38	-11	-22.4%	-20.8%
内 Flooid	56	41	-15	-26.8%	-23.7%
欧州	675	731	+56	+8.3%	+11.0%
内 GGS	333	355	+22	+6.6%	+9.0%
内 Sitrade	129	149	+20	+15.5%	+18.9%
内 Acrelec	177	190	+13	+7.3%	+10.1%
内 Flooid	36	37	+1	+2.8%	+5.3%
アジア	139	117	-22	-15.8%	-13.8%
内 GGS	110	98	-12	-10.9%	-9.0%
内 Acrelec	29	19	-10	-34.5%	-32.0%
合計	1,532	1,535	+3	+0.2%	+2.8%
内 GGS	1,055	1,060	+5	+0.5%	+2.9%
内 Sitrade	129	149	+20	+15.5%	+18.9%
内 Acrelec	256	248	-8	-3.1%	-0.6%
内 Flooid	92	78	-14	-15.2%	-12.3%

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

15

「海外地域別、会社別売上高」

全体としては、欧州が前年同期を上回る一方、米州とアジアが減少し、トータルでは前年同期並み
欧州は堅調

米州はリテールPOSを手掛けるフルイドと飲食市場をターゲットとするアクレレックが伸び悩む

アジアでは中国事業の縮小も影響

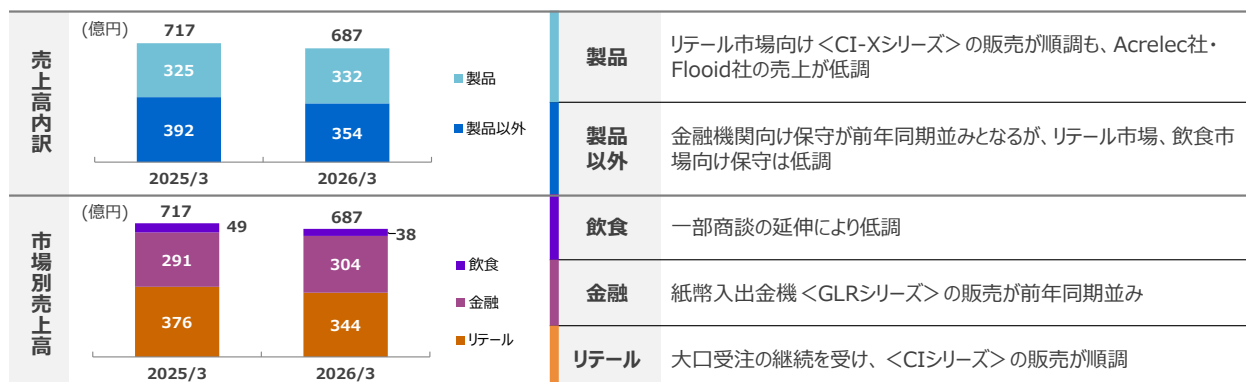
次のページ以降で地域別の詳細を説明

地域別売上高 米州

<日本会計基準>

GLORY

億円	第3四半期累計期間		前年同期比		米ドルベース
	2025年3月期	2026年3月期			
米州	717	687	-30	-4.2%	-1.8%
内 GGS	612	608	-4	-0.7%	+1.8%
内 Acrelec	49	38	-11	-22.4%	-20.8%
内 Flooid	56	41	-15	-26.8%	-23.7%



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

16

「海外 地域別売上高：米州」

(製品/製品以外売上高)

製品販売は、金融機関向け GLR シリーズおよびリテール向け CI シリーズの販売が堅調に推移一方で、製品以外の売上はリテール・飲食市場向けが低調となり、全体の売上成長にはつながず

(市場別売上高)

市場別では、金融は前年並み、リテールは堅調、飲食市場は一部商談延伸の影響で低調製品需要に底堅さがある一方、サービス系収益の改善が今後のポイント

地域別売上高 欧州

<日本会計基準>

GLORY

億円	第3四半期累計期間		前年同期比		
	2025年3月期	2026年3月期			米ドルベース
欧州	675	731	+56	+8.3%	+11.0%
内 GGS	333	355	+22	+6.6%	+9.0%
内 Sitrade	129	149	+20	+15.5%	+18.9%
内 Acrelec	177	190	+13	+7.3%	+10.1%
内 Flooid	36	37	+1	+2.8%	+5.3%



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

17

「海外 地域別売上高：欧州」

(製品/製品以外売上高、市場別売上高)

欧州は非常に良好で、製品・サービスともに全ての市場で堅調に推移

リテール市場ではグローバルリテラー向け CI シリーズの販売が好調

金融市場でもイタリアの大口納入が進捗したほか、他国もおおむね前年並みを維持

また、飲食市場でも新ソリューションの販売が順調で、全体の業績を牽引

海外の中でも最もバランスよく伸びた地域であり、通期でも安定した売上寄与が期待できる状況

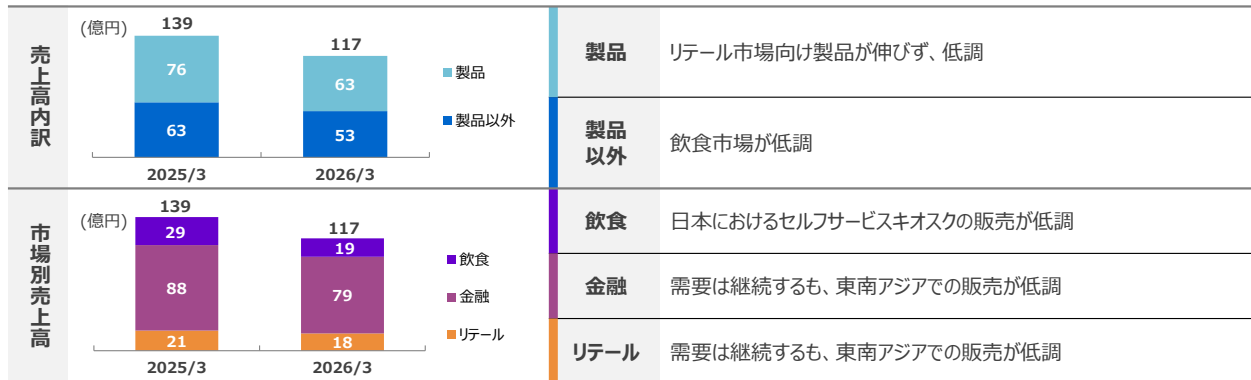
地域別売上高 アジア

<日本会計基準>

GLORY

億円	第3四半期累計期間		前年同期比		米ドルベース
	2025年3月期	2026年3月期			
アジア	139	117	-22	-15.8%	-13.8%
内 GGS	110	98	-12	-10.9%	-9.0%
内 Acrelec	29	19	-10	-34.5%	-32.0%

※Acrelec社の日本国内での売上を含む



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

18

「海外 地域別売上高：アジア」

(製品/製品以外売上高)

製品・サービスともに前年同期比で減収

(市場別売上高)

飲食市場では、アクレレック社のセルフサービスキオスク販売が低調

金融市場では紙幣整理機の需要が弱含み

リテール市場でもCI シリーズの販売が伸び悩む

また中国市場の活動縮小の影響もあり、地域全体としては調整局面

アクレック社およびフルイド社の実績

<日本会計基準>

GLORY



億円		第3四半期累計期間				前年同期比
		2025年3月期		2026年3月期		
売上高		256		248		-8
米州		49	19%	38	15%	-11
欧州		177	69%	190	77%	+13
アジア		29	11%	19	8%	-10
営業利益	のれん償却前	16		5		-11
	のれん償却後	9		0		-9

米州

関税影響による顧客の投資控えが影響し、前年同期を下回る

欧州

主要国フランス等で順調に推移

アジア

日本での販売低調が影響し、前年同期を下回る



億円		第3四半期累計期間				前年同期比
		2025年3月期		2026年3月期		
売上高		92		78		-14
米州		56	61%	41	53%	-15
欧州		36	39%	37	47%	+1
営業利益	のれん償却前	25		4		-21
	のれん償却後	14		-5		-19

米州

特定顧客へのソフトウェアライセンス販売により、売上高が一時的に増加した前年同期に比べ、減少

欧州

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

19

「アクレック社、フルイド社の業績」

(アクレック社)

・売上高 248億円（前年同期比－8億円）

米州：米国の関税政策の影響による投資抑制もあり、販売は前年同期を下回る

欧州：フランスを中心に販売は順調に推移

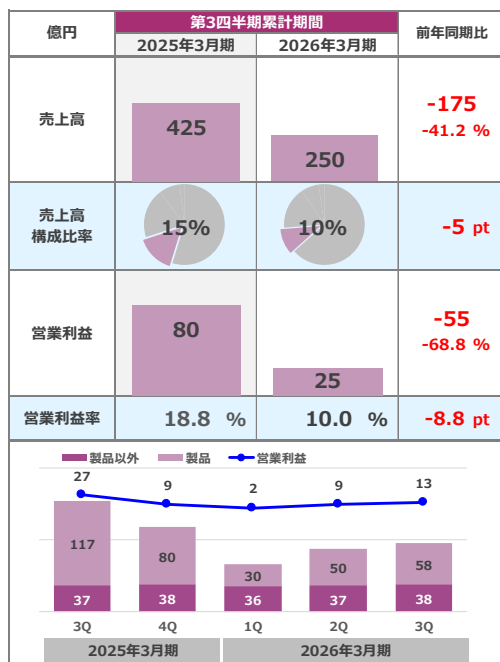
アジア：日本でのセルフサービスKIOSKの販売が一巡し販売が減少

(フルイド社)

・売上高 78億円（前年同期比－14億円）

前年同期の特定顧客向けのソフトウェアライセンス販売が一時的に増加した反動があり、減収

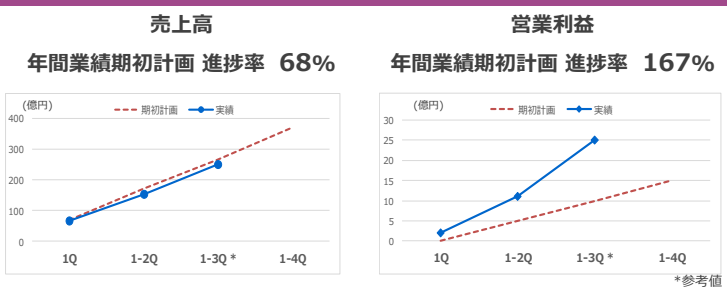
いずれも一時的な要因が大きく、構造的な需要減退ではない



業績のポイント

売上高	実績	前年同期比減収
	要因	主要製品の販売が減少
	対策	セルフ化ソリューション、非現金処理事業の拡大
営業利益	実績	前年同期比減益
	要因	主要製品の販売が減少
	対策	セルフ化ソリューション、非現金処理事業の拡大

計画に対する進捗



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

20

「金融市場」

・売上高 250億円（前年同期比 - 175億円）

・営業利益 25億円（前年同期比 - 55億円）

前年同期は、郵政・JA向けを中心とした大型更新需要がピークで、今期はその反動が大きく発生
 主要製品では、オープン出納システムが ▲83.4%、窓口用紙幣硬貨入出金機は ▲76.7%と大幅
 減少。一方、保守売上は前年並みを維持

業績は新紙幣発行の反動減の影響が中心であり、中長期的には省人化ソリューションや非現金領域
 の強化で市場機会の継続成長を見込む

億円	第3四半期累計期間		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期	
売上高	557	408	-149 -26.8 %
売上高 構成比率	20%	17%	-3 pt
営業利益	101	11	-90 -89.1 %
営業利益率	18.1 %	2.7 %	-15.4 pt

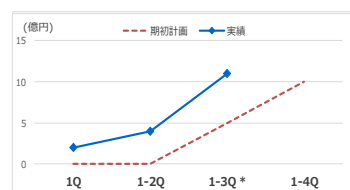
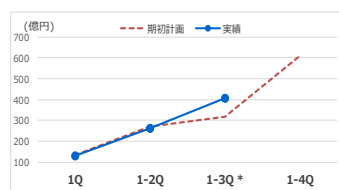
製品以外	製品	営業利益
12	0	2
98	101	2
42	39	6
3Q	4Q	1Q
2025年3月期	2026年3月期	2Q

業績のポイント

売上高	実績	前年同期比減収
	要因	新紙幣関連の更新・改造需要の反動減。大口案件の延伸
	対策	人手不足に対応したセルフ化ソリューションの販売拡大
営業利益	実績	前年同期比減益
	要因	新紙幣関連売上高、及び主要製品売上高の減少
	対策	ソリューション販売の拡大、及び収益性の改善策の推進

計画に対する進捗

売上高 年間業績期初計画 進捗率 67%
営業利益 年間業績期初計画 進捗率 110%



ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

21

「流通・交通市場」

・売上高 408億円（前年同期比 - 149億円）

・営業利益 11億円（前年同期比 - 90億円）

新紙幣特需の反動により、主要製品であるレジつり銭機が ▲32.2%と減少、券売機は ▲64.9%、売上金入金機は ▲18.2%と、各製品で需要が一巡

人手不足によるセルフ化ニーズは引き続き強く、今後、省人化・効率化ニーズの獲得が次年度以降の成長要素となる

億円	第3四半期累計期間		前年同期比
	2025年3月期	2026年3月期	
売上高	231	172	-59 -25.5 %
売上高 構成比率	8%	7%	-1 pt
営業利益	77	49	-28 -36.4 %
営業利益率	33.3 %	28.5 %	-4.8 pt

製品以外	製品	営業利益
22	8	14
62	41	55
5	4	4
3Q	4Q	1Q
2025年3月期		2026年3月期

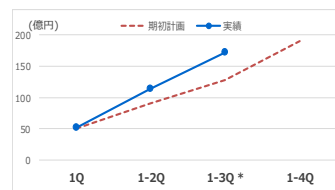
業績のポイント

売上高	実績	前年同期比減収
	要因	新紙幣関連売上高の減少、及びカードシステムの販売減少
	対策	スマートパチンコの新基準に関する需要の取り込み
営業利益	実績	前年同期比減益
	要因	新紙幣発行に伴う改造売上高、及びカードシステムの売上高減少
	対策	スマート遊技機関連製品の利益率の維持向上を図る

計画に対する進捗

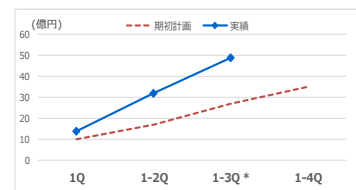
売上高

年間業績期初計画 進捗率 91%



営業利益

年間業績期初計画 進捗率 140%



*参考値

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

22

「遊技市場」

・売上高 172億円（前年同期比 - 59億円）

・営業利益 49億円（前年同期比 - 28億円）

主要製品であるカードシステムは、スマートパチンコ関連の販売が増加した一方で、スマートパチスロの販売減速により、全体では ▲17.9%。また、新紙幣関連の更新・改造需要が一巡し、両替機など周辺機器および保守売上が減少

競争環境はやや厳しくなってきたものの、スマート遊技機関連製品の需要は引き続き存在し、収益性改善に取り組む

2026年3月期 通期

3

連結業績予想

執行役員 経営戦略本部長 田中 千也

「2026年3月期 連結業績の予想」

説明者：経営戦略本部長 田中 千也

2026年3月期 通期 業績予想

<日本会計基準>

GLORY

売上高 海外は前期並みを見込むが、国内事業は新紙幣発行対応(特別需要)等の反動により販売減少を予想

利益 海外事業は大幅な増益を見込むが、国内事業の新紙幣発行対応(特別需要)等の反動による売上高減少により営業減益を予想

億円	通 期					前期比 (C) - (A)	前回予想比 (C) - (B)	IFRS (億円)	2026年3月期 予想
	2025年3月期 (A)	売上高 比率	2026年3月期		売上高 比率				
			11月10日予想(B)	2月6日予想(C)					
売上高	3,690	100.0%	3,400	3,400	100.0%	-290	0	売上収益	3,400
保守売上高	1,326	35.9%	1,240	1,240	36.5%	-86	0		
営業利益	367	9.9%	240	240	7.1%	-127	0	営業利益	295
経常利益	300	8.1%	220	180	5.3%	-120	-40	-	-
親会社株主に帰属する 当期純利益	171	4.6%	115	90	2.6%	-81	-25	親会社株主に帰属する 当期純利益	145
※ EBITDA	608	16.5%	481	481	14.1%	-127	0	*基本的1株当たり当期利益：266.15円	
為替 レート	ドル	153 円			145 円				
	ユーロ	164 円			160 円				

アクレック社の100%完全子会社化（残20%株式を取

※EBITDA=営業損益+減価償却費+のれん償却費

アクレック社の100%完全子会社化（残20%株式を取得）により
営業外費用 約30億円を計上
目的：経営判断を迅速化し、事業推進力を強化

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

24

「2026年3月期 通期業績予想」

売上高・営業利益は前回予想を据え置く

アクレックの残り20%の株式取得の影響等により、経常利益、当期純利益を下方修正

・売上高は、3,400億円（前期比－290億円）

・営業利益は、240億円（前期比－127億円）

・経常利益は、220億円から180億円に下方修正（前期比－120億円）

・親会社株主に帰属する当期純利益は、115億円から90億円に下方修正
（前期比－81億円）

2026年3月期 通期 業績予想 セグメント別売上高・営業利益

<日本会計基準>

GLORY

億円		通 期					前期比 (C) - (A)	前回予想比 (C) - (B)	IFRS 2026年3月期 予想
		2025年3月期 (A)	売上高構成比率	2026年3月期		売上高構成比率			
			営業利益率	11月10日予想(B)	2月6日予想(C)	営業利益率			
海外市場	売上高	2,100	56.9%	2,160	2,160	63.5%	+60	0	2,160
	営業利益	91	4.3%	150	140	6.5%	+49	-10	220
金融市場	売上高	544	14.7%	370	380	11.2%	-164	+10	380
	営業利益	89	16.4%	25	35	9.2%	-54	+10	22
流通・交通 市場	売上高	697	18.9%	610	570	16.8%	-127	-40	570
	営業利益	102	14.6%	14	14	2.5%	-88	0	5
遊技市場	売上高	277	7.5%	190	220	6.5%	-57	+30	220
	営業利益	86	31.0%	56	56	25.5%	-30	0	53
その他	売上高	70	1.9%	70	70	2.1%	0	0	70
	営業利益	-2	-	-5	-5	-	-3	0	-5
合 計	売上高	3,690	100.0%	3,400	3,400	100.0%	-290	0	3,400
	営業利益	367	9.9%	240	240	7.1%	-127	0	295

海外市場	リテール飲食市場での新規案件の獲得や、金融市場の更新需要などにより増収増益を見込む
金融市場	主要製品の更新需要は一巡し減収減益を見込むも、非現金分野や周辺機器の販売は高水準を維持
流通・交通市場	新紙幣発行に伴う製品・サービスの反動減により減収減益を見込む
遊技市場	スマート遊技機向けカードシステムの販売は緩やかになることを見込む

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

25

「セグメント別業績予想」

（海外市場）現状の利益改善度合いを考慮し、営業利益を引き下げ

- ・売上高は2,160億円（前期比+60億円）
- ・営業利益は150億円から140億円（前期比+49億円）に下方修正

（金融市場）主要製品の販売増加を見込む

- ・売上高は370億円から380億円（前期比-164億円）に上方修正
- ・営業利益は25億円から35億円（前期比-54億円）に上方修正

（流通・交通市場）セルフ化ソリューションに関する大口商談の延伸等を反映

- ・売上高は610億円から570億円（前期比-127億円）に下方修正
- ・営業利益は14億円（前期比-88億円）

（遊技市場）スマート遊技機向けカードユニットの販売動向を反映

- ・売上高は190億円から220億円（前期比-57億円）に上方修正
- ・営業利益は56億円（前期比-30億円）

2026年3月期 通期 業績予想 海外地域別売上高

<日本会計基準>

GLORY

億円	通 期			前期比 (C)-(A)			前回予想比 (C)-(B)
	2025年3月期 (A)	11月10日予想(B)	2026年3月期 2月6日予想 (C)			米ドルベース	
米州	1,008	1,060	1,050	+42	+4.2%	+9.5%	-10
内 GGS	875	915	930	+55	+6.3%	+11.9%	+15
内 Acrelec	63	70	60	-3	-4.8%	-0.2%	-10
内 Flooid	70	75	60	-10	-14.3%	-10.6%	-15
欧州	900	930	940	+40	+4.4%	+9.9%	+10
内 GGS	453	455	470	+17	+3.8%	+9.4%	+15
内 Sitrade	166	170	170	+4	+2.4%	+7.7%	0
内 Acrelec	231	250	250	+19	+8.2%	+13.6%	0
内 Flooid	50	55	50	0	0.0%	+4.0%	-5
アジア	191	170	170	-21	-11.0%	-6.6%	0
内 GGS	154	130	140	-14	-9.1%	-4.5%	+10
内 Acrelec	37	40	30	-7	-18.9%	-15.5%	-10
合 計	2,100	2,160	2,160	+60	+2.9%	+8.2%	0
内 GGS	1,481	1,500	1,540	+59	+4.0%	+9.4%	+40
内 Sitrade	166	170	170	+4	+2.4%	+7.7%	0
内 Acrelec	332	360	340	+8	+2.4%	+7.7%	-20
内 Flooid	121	130	110	-11	-9.1%	-4.5%	-20

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

26

「海外の地域別売上高」

- ・米州は1,060億円から**1,050億円**（前期比+42億円）に下方修正
アクレレックおよびフルイドでの一部案件の延伸を織り込む
- ・欧州は930億円から**940億円**（前期比+40億円）に上方修正
3Qまでの実績を反映
- ・アジアは**170億円**（前期比-21億円）
堅調な需要環境が継続する見込み

アクレック社およびフルイド社の通期予想

<日本会計基準>

GLORY



億円	通 期					前回予想比 (C)-(B)
	2025年3月期 (A)	2026年3月期			前期比 (C)-(A)	
		11月10日予想(B)	2月6日予想(C)			
売上高	332		340			
米州	63	19%	70	60	18%	-3
欧州	231	70%	250	250	74%	+19
アジア	37	11%	40	30	9%	-7
合計	332	100%	360	340	100%	+8
営業利益	15		25	11		-4
のれん償却前 (IFRS)	7		17	3		-4
のれん償却後						

億円	通 期					前回予想比 (C)-(A)	前回予想比 (C)-(B)
	2025年3月期 (A)	2026年3月期			前期比 (C)-(A)		
		11月10日予想(B)	2月6日予想(C)				
売上高	121		110				
米州	70	58%	75	60	55%	-10	-15
欧州	50	41%	55	50	45%	0	-5
合計	121	100%	130	110	100%	-11	-20
営業利益	27		19	11		-16	-8
のれん償却前 (IFRS)	14		6	-2		-16	-8
のれん償却後							

米州

市場成長の踊り場にあたり、一時的な減収を予想

欧州

主要国フランス等で順調に推移

アジア

日本において、KIOSK導入の一巡を受け一時的な減収を予想

米州

開発を強化してさらなる成長を目指す

欧州

ダイジェスト

2026年3月期 第3四半期累計期間 連結業績

2026年3月期 業績予想

27

「Acrelec社とFloodid社の通期予想」

(Acrelec社)

下期に各地域で販売回復を見込む

売上高は360億円から**340億円**（前期比+8億円）に下方修正

市場成長の踊り場に位置するものの、米州・欧州ともに案件獲得の動きは継続

(Floodid社)

SaaS契約を中心に堅調な販売を見込む

売上高は130億円から**110億円**（前期比-11億円）に下方修正

前期の一過性ライセンス特需を除くと、基礎的な収益水準は安定

今後も事業環境の変化に柔軟に対応しつつ、収益基盤の強化を引き続き進める

<注意事項>

1. 本資料に記載されている、業績見通し等の将来に関する情報は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。そのような要因としては、主要市場の経済状況および製品需要の変動、為替相場の変動、国内外の各種規制ならびに会計基準・慣行等の変更などが含まれます。
また、本資料の将来の見通しに関する記述につきましては、法律上その手続きが必要となる場合を除き、事前予告なく変更することもありますので、ご了承ください。
2. 当資料の増減率、構成比は、千万円以下を切り捨てた数値を基に算出しており、決算短信の増減率とは異なる場合があります。